しまね19市町村
紹介ブック

しまねのね



しまねはね、

19の市町村からできています。
この本は、そのどこかに住んでいる、
12才のあなたに向けて作りました。
もちろん、これから12才を迎えるあなたにも、
12才の頃が思い出せなくなってしまったあなたにも、
読んでもらえたら嬉しいです。

あなたの住むまちは、どんなまちですか。

それぞれのまちに、そのまち「らしさ」があります。
この本では、「このまちといえば、これ！」という、
「らしさ」を集めてみました。
「そうそう」と納得する人も、「知らなかった」と
発見する人も、いるかもしれません。

「らしさ」は、まちの魅力です。
日本海や中国山地などの自然が育んだもの、
時代の流れを感じるような歴史的なもの、
地域で愛される食べ物や産業、お祭り、
そしてそこに生きる人々。

この本に集められた、まちの「らしさ」には、
当たり前すぎて注目したことのなかったものや、
知らなかったものも、あるかもしれません。
まちの「らしさ」を知ることは、まちの魅力を知ること。
それは、まちの歴史や文化を受け継ぎ、繋いでいくことです。

この本が、あなたと19のまちの「らしさ」が出会う
きっかけになれたら幸いです。



もくじ

しまねはね、……p1〜2
出雲エリア……p3〜14
特集〈神楽/お雑煮〉 p15〜16
石見エリア……p17〜34
特集〈空港/温泉〉 …p35〜36
隠岐エリア……p37〜44
島根は
なにもないまち？ ……p45〜46





松江市
Matsue

出雲エリア

宍道湖と大橋川

しまねのね
世界にも自慢できる水の都

世界の人から見ると、驚くほど古い時代から栄えてきたまち

島根県の県庁所在地、松江は、「水の都」と呼ばれるほど水辺の美しいまちです。「宍道湖」「中海」をはじめ、東に「美保湾」、北に「日本海」、中心に「大橋川」と、様々な水辺があります。

そこには柵などの隔たりがほとんどないので、松江に住む人にとって生活の一部となっているその様子は他のまちから見ると珍しいものです。

また、松江は車のない昔から、船を使って人や荷物を運びやすく、外国との行き来もしやすい場所だったこともあり、古代の時代から栄えてきました。至る所で水鳥が遊び、いくつもの橋が架かる水辺の風景そのものが、世界の人々を引きつける魅力となっています。



日本の夕日百景にも選ばれる宍道湖の夕日



この町をものすごく愛した
文豪・小泉八雲

ギリシャ生まれのイギリス人、ラフカディオ・ハーン。日本文化や「古事記」などに影響され1890（明治23）年に来日し、島根県尋常中学校（現在の松江北高等学校）の英語教師となりました。妻・小泉セツから聞いた出雲地方に伝わるたくさんの不思議な話を元に、自分の考えを含めながら「耳なし芳一」「雪女」など数多くの怪談を書きました。

和菓子

大名茶人として有名だった松江藩主の不昧公が築いた茶の湯文化。松江は京都、金沢と並ぶ日本三大菓子、茶処と知られています。不昧公が好んだとされる和菓子「若草」「山川」「菜種の里」は、今も親しまれている松江三大銘菓です。





堀川遊覧船



松江祭鼕行列

国宝松江城

松江城は、日本に現存する12天守のうちのひとつで、2015（平成27）年7月に神魂神社本殿に次いで国宝に指定されました。三角屋根は、千鳥が羽を広げた格好に見えることから「千鳥破風」と言い、そこから松江城は別名「千鳥城」と呼ばれています。



しまね19ものがたり
松江城と盆踊り



そういえば、盆踊りがない…

松江城を築くとき、いくら積んでも崩れる石垣に、すっかり困り果てました。そこで、盆踊りが行われた夜、踊りが最も上手な美しい娘をさらって、石垣作りの人柱にしました。それからです。城下で盆踊りがあると、娘の怨念からか、お城が大きく揺れるのです。以来、城下の盆踊りは禁止され、今でもほとんど見られません。



松江大根島牡丹

松江市のスローガン
夢が実現できるまち、誇れるまち 松江

人　口：202,551 人
面　積：573.0㎢
市の花：椿、牡丹
市の木：松、桜
市の魚：しじみ、鯛



しじみ汁

特産品

西条柿、八雲塗り、出雲民芸紙、あご野焼、玄丹そば、めのう細工、石灯ろう、大和しじみ、牡丹、雲州人参、お茶、和菓子、津田かぶ、黒田セリ

まちのスポット

興雲閣、武家屋敷、小泉八雲記念館・旧居、明々庵、堀川遊覧船、来待ストーン、玉造温泉、黄泉比良坂、松江しんじ湖温泉、神魂神社（本殿が国宝）

お祭・イベント

お城まつり、松江武者行列、松江水郷祭、松江水燈路、松江祭鼕行列、松江城大茶会、ホーランエンヤ

これが「直会」の始まり

八百万の神が集まる、神在月。出雲大社に集まった神々が、数日間に渡り様々な縁結びについて相談され、最後は万九千神社で締めくくられます。たくさんの相談事が終わりに近づく頃、宮司が神様の集まる部屋の戸を、「お立ち」と唱えながら、梅の小枝で叩きます。旅立ちの時を知らせるのです。戸が叩かれた夜には宴が開かれ、その後、神々は各地へとお帰りになります。



出雲市のスローガン

げんき、やさしさ、しあわせあふれる縁結びのまち　出雲

人　口：172,943 人
面　積：624.4㎢
市の花：菊
市の木：黒松



出西しょうが

特産品

島根ぶどう、出雲そば、多伎いちじく、大和しじみ、十六島のり、西条柿、出雲ぜんざい、出西しょうが、出西焼

まちのスポット

出雲大社、古代出雲歴史博物館、出雲ドーム、日御碕灯台、立久恵峡、須佐神社、木綿街道、荒神谷博物館、鰐淵寺、一畑寺、万九千神社、稲佐の浜

お祭・イベント

出雲総合芸術文化祭、出雲くにびきマラソン、スイムランin多伎、一畑薬師マラソン大会、出雲ドーム2000人の吹奏楽、出雲大社神在祭



出雲ドーム



荒神谷遺跡

斐川町にある弥生時代の青銅器埋納遺跡。1983（昭和58）年に銅剣358本、銅鐸6個、銅矛16本が出土しました。これは、日本全国で出土した銅剣の総数を上回る数で、古代出雲の勢力を示すものとして注目され、1998(平成10）年に「島根県荒神谷遺跡出土品」として国宝に指定されました。



出雲そば

十六島のり

733年に書かれた「出雲国風土記」にも書かれている、歴史のある海苔です。奈良時代、平安時代には朝廷へ献上される高級品でした。





出雲大社

出雲市
Izumo

しまねのね

日本中の神様が集まる神話の舞台

今も残る、神話と遺跡が古代の力強さを伝えるまち

大昔から、日本には、あらゆるものに神様が宿るという考え方があったため、日本中に数え切れないほどたくさんの神様がいます。その神様たちが、年に一度大集合する、唯一のまち、それが出雲です。だから、神様が出雲に集まる、旧暦の10月のことを、他の地域では神様が留守になる「神無月」と呼びますが、出雲では「神在月」と呼びます。出雲は、あちこちに神様の物語がちりばめられている神話の舞台。出雲大社、荒神谷遺跡、西谷墳墓群などの、歴史と文化を伝えるたくさんの遺産があるのは、このまちが、古代の時代に日本の中心となる強い力を持っていたからなんです。

出雲大社神迎神事



出雲大社

日本最古の歴史書といわれる「古事記」にその創建の由縁が記されている古社で、主祭神はだいこく様として馴染みの深い「大国主大神」。「古事記」に記される国譲り神話では、大国主大神が高天原の天照大神に国を譲ります。そのときに造営となる壮大な宮殿が出雲大社の始まりといわれています。



日御碕灯台

島根半島の最西端の断崖にそびえる「出雲日御碕灯台」。1903（明治36）年に設置されました。高さが43.65mあり、石造灯台としては日本一の高さを誇ります。





しまね19ものがたり

清水寺の由来



お坊さんの強い願いが実を結ぶ

お寺が開かれたとき、その地では一滴の水も出ませんでした。そこで、お坊さんが７日間祈願をしたところ、清らかな水が湧き出したのです。その水は、大雨が降っても濁ることがなく、雨が降らない日が続いても枯れることがありません。そのお寺は、「清水寺」と名付けられ、今でも清らかな水をたたえています。



やすぎ月の輪まつり





月山富田城跡

戦国大名尼子氏の居城として知られる、難攻不落の名城でした。「我に七難八苦を与えたまえ」の名言が伝わる武将・山中鹿之助も有名です。



加納莞蕾

広瀬町布部生まれの画家。第２次世界大戦終戦後、フィリピンに収監された日本兵の解放に尽力しました。その後も平和活動を続け、フィリピンとの友好の架け橋となった人物です。

金屋子神社と和鋼博物館

全国1200社を数える金屋子神社の総本宮があります。日本で唯一のたたらの総合博物館である「和鋼博物館」と併せて、安来とたたらの歴史にふれられます。





安来節

安来市 Yasugi

出雲エリア

しまねのね

ハガネと安来節のまち

安来に行かなきゃ出会えない、みんなが訪れたくなる理由

安来には、ずっと昔に鉄づくりの女神「金屋子神」がやってきて、生活にかかせない鉄の作り方を人々に伝えたという伝説があります。だから、この女神をまつる「金屋子神社」には、鉄に関わる人たちが日本中からお参りに訪れます。

伝説から始まった、鉄づくりの伝統と技術が、現代にも受け継がれて、安来は日本の中でも有名な鉄鋼開発の中心地として、「ハガネの町」と呼ばれています。

また、中国山地で作られた鉄の積み出し港としても栄えた安来では、各地の船頭が唄う民謡などの影響を受けて、どじょうすくい踊りで有名な「安来節」が生まれました。

他にも、世界で一番美しいと評価される日本庭園がある足立美術館や、完熟のために安来から離れた地域では食べることのできないとびきり甘い苺など、安来には、行ってみたくなるステキな魅力があるんです。

安来節

島根県を代表する郷土民謡で、船歌である出雲節が変化したもの。七七七五調の唄と三味線、鼓、銭太鼓、そしておなじみのどじょうすくい踊りで構成され、安来市の無形民俗文化財に指定されています。



安来いちご

島根県内最大のいちご生産地。安来では主に人気ブランド品種の「章姫」と「紅ほっぺ」を作っています。





和鋼博物館

安来市のスローガン

人が集い　未来を拓く
ものづくりと文化のまち

人　口：36,480人
面　積：421.0㎢
市の花：さくら
市の木：竹・もみじ
市鳥・魚：白鳥・どじょう



特産品

どじょう、伯太茶、イチゴ、二十世紀梨、たけのこ、清水羊かん、日本酒、広瀬絣、方円窯、錦山焼

まちのスポット

月山富田城跡、足立美術館、和鋼博物館、清水寺、安来市加納美術館、広瀬絣センター、安来節演芸館、安来市立歴史資料館、雲樹寺、金屋子神社、金屋子神話民俗館

お祭・イベント

はくたチューリップ祭、やすぎ刃物まつり、ひろせ祇園祭、やすぎ月の輪まつり、戦国尼子フェスティバル（5年に1回）

雲南市
Unnan


斐伊川堤防桜並木

しまねのね
桜が彩る神話の舞台

スサノオやオロチの物語を辿る、古代ロマンにキュン！

雲南は、スサノオノミコトとヤマタノオロチにまつわる伝説が各地に残る神話の舞台です。まちの中央を流れる「斐伊川」や「天が淵」には、オロチが棲んでいたといわれ、オロチを退治したスサノオノミコトが造ったという日本初之宮「須我神社」もあります。言い伝えだけではなく、「加茂岩倉遺跡」では、大昔のお祭りの道具と考えられる銅鐸が39個も発掘され、ここがかつて日本の中でも重要な場所であった証拠だと、日本中の人が驚く発見となりました。

また、鉄を作るための「たたら製鉄」が盛んだった土地でもあり、製鉄施設の一つであった高殿「菅谷高殿」は、全国で唯一現存する高殿様式で、たたら製鉄の名残をとどめています。

歴史が息づく雲南は、桜の名所としても知られ、斐伊川堤防桜並木や三刀屋川河川敷には、桜の時期になると多くの人が集まり、お花見を楽しみます。



龍頭が滝

中国地方随一ともいわれる有名な滝で、「日本の滝百選」に選ばれています。雄滝と雌滝の二つを合わせた滝で、雄滝を裏側から見ると、まるで水のカーテンのように優雅で幻想的です。



原爆被害と戦争の愚かさを訴えた 永井 隆

島根県出身であり放射線医学の治療と研究に従事した永井 隆 博士。長崎に投下された原子爆弾により重傷を負いながらも被爆者の救護に尽力。病に倒れてからも原爆の研究と執筆活動を続け、世界平和を訴え続けました。






清々しの語源になった須我神社


菅谷たたら高殿



加茂岩倉遺跡

1996(平成8)年、加茂町岩倉の農道工事現場から約2000年前のものと思われる大量の銅鐸が出土し、一カ所の出土としては全国最多の39個が発見されました。


銅鐸

山王寺の棚田

「日本の棚田百選」に認定された棚田で、大東町の山腹にあり、面積19ha、棚田数は約200枚です。田んぼが幾重にも続く美しい景色は地区の農家により守られています。


山王寺の棚田

しまね19ものがたり ヤマタノオロチ

オロチ、酒に負ける。

八つの頭に八つの尾を持つ大蛇、ヤマタノオロチは、毎年山から下りては娘を食らっていました。天から降りてきたスサノオは、八人目の生けにえとなるクシナダヒメを助けるため、オロチを酒で酔わせ、眠ったところに斬りかかりました。すると、倒したオロチの尾から、見事な太刀が現れたのです。これが、三種の神器のひとつ、天叢雲剣です。



雲南市のスローガン

生命と神話が息づく新しい日本のふるさとづくり

人　口：35,367人
面　積：553.2㎢
市の花：桜
市の木：イチョウ



特産品

御衣黄

お米、お茶、メロン、ぶどう、乳製品、ワイン、葉ねぎ、鶏卵、わら工芸品、栗、味噌、梅

まちのスポット

海潮温泉、加茂岩倉遺跡、菅谷たたら・山内生活伝承館、健康の森、斐伊川堤防桜並木(日本さくら名所100選)、出雲湯村温泉、奥出雲葡萄園、龍頭が滝・八重滝、掛合酒蔵資料館

お祭・イベント

雲南市桜まつり、花田植え、大東七夕祭、八重滝・龍頭が滝祭り、永井隆平和賞、雲南市総合芸術文化祭

しまねのね

世界でここだけ！たたらの炎が燃えるまち

ヤマタノオロチ伝説が残る、たたら製鉄と自然が共生したまち

春にはカタクリの花が山頂一面を紫に染める「船通山」。古くから信仰を集めるこの山には、日本で最も有名な神話の一つ「ヤマタノオロチ伝説」にまつわる言い伝えがいくつも残されており、奥出雲は出雲神話発祥の地として知られています。

また、生活に必要な鉄を作る「たたら製鉄」の歴史とも深い結びつきがあります。「たたら製鉄」は、日本各地で行われてきましたが、特に奥出雲では、自然を守りながら製鉄をしてきたため、そのことが、現在にも続く美しい棚田の風景やおいしいキノコ、和牛、ソバなど奥出雲の魅力を生み出すことに繋がりました。日本農業遺産にも認定されています。







日刀保たたら

たたら製鉄と「奥出雲たたらと刀剣館」

「たたら製鉄」は日本刀の原料になる「玉鋼」を生産することができる唯一の製鉄法です。奥出雲の「日刀保たたら」では、この「たたら製鉄」が現在も続けられています。「奥出雲たたらと刀剣館」では、実物大のたたら炉断面模型をはじめとする豊富な資料から、たたら製鉄について学ぶことができます。



奥出雲たたらと刀剣館

雲州そろばん

江戸時代後期に生産が始まったとされる、国指定の伝統的工芸品。現在でも手作り製法が続けられており、丈夫で使いやすい高級そろばんとして全国に知られています。





船通山宣揚祭

船通山

スサノオノミコトがヤマタノオロチを退治したときに、ヤマタノオロチの尾から三種の神器の一つ天叢雲剣が現れた場所と伝えられています。頂上には、「天叢雲剣出現之地」の碑とスサノオを祭る祠があり、船通山登山の安全を祈る「宣揚祭」が行われます。



奥出雲多根自然博物館



仁多米

全国でも高い評価を得て、「西の横綱」とも呼ばれるブランド米。大規模な棚田で、ミネラル豊富な水や土、昼夜の温度差など、奥出雲ならではの条件が整っておいしいお米が作られます。

トロッコ列車

JR木次線のトロッコ列車「奥出雲おろち号」。青と白の車体に星を散りばめたトロッコ列車に乗って、奥出雲の大自然を楽しめます。出雲坂根駅～三井野原駅の「三段式スイッチバック」は一番の見どころです。





しまね19ものがたり　ワニの悲恋

姫のこと、好きなだけ、なのに。

むかしむかし、一匹のワニがいました。ワニは、斐伊川の上流で暮らしているタマヒメに恋をします。そこで、タマヒメにひと目会いたいと、力をふりしぼって川をさかのぼっていきました。しかしタマヒメは、ワニを嫌い、大きな岩で川をふさいで、近づけないようにしたのです。それが大渓谷「鬼の舌震」となりました。

奥出雲町のスローガン

つながりで築く
幸せと笑顔あふれるまち
奥出雲町

人　口：11,642人
面　積：368.0㎢
町の花：しゃくなげ
町の木：もみじ

特産品

仁多米、和牛、菌床椎茸、舞茸、そば、もち、日本酒

まちのスポット

鬼の舌震、絲原記念館、可部屋集成館、道の駅酒蔵奥出雲交流館、たたら角炉伝承館、奥出雲たたらと刀剣館、奥出雲多根自然博物館、雲州そろばん伝統産業会館、鉄の彫刻美術館、奥出雲美肌温泉郷

お祭・イベント

三成愛宕祭、船通山宣揚祭、奥出雲サイクリング、阿井八幡宮押輿神事

飯南町
いいなん
Iinan


森林セラピー

しまねのね
神様の目印になる高原のまち

日本で一番大きなしめ縄を作る、しめ縄のふるさと

神在月に出雲大社へと集まる神様たちは、琴引山を目印にして、まずは飯南に降り立ちます。飯南の中央にそびえる琴引山は、国造りをした神様オオクニヌシノミコトの琴が納められている山として、出雲国風土記にも記されているほど大昔から重要な存在だった山です。

そして、出雲大社の神楽殿にある日本最大級のしめ縄を作る場所も飯南です。その長さ13・6m、重さはなんと5・2t。

琴引山や大万木山といった高い山々が囲う高原地帯にある飯南は、しめ縄づくりにぴったりの強くてしなやかな稲わらを育てるのにちょうど良い場所。

大しめ縄創作館では、家庭用はもちろん、全国の神社から依頼を受けてしめ縄づくりを行うとともに、その伝統を伝えています。


上／大万木山 権現滝
右／森の妖精サンカヨウ

大万木山

標高1,200ｍを超える中国山地を形成する山のひとつで、出雲国風土記にも名が記されています。県内有数のブナ原生林やサンカヨウ自生地が見所で、春夏秋冬それぞれに素晴らしい景色を楽しむことができます。

大しめ縄づくりと「大しめなわ創作館」

大しめなわ創作館では、制作工房の見学、資料展示、しめ縄づくりの体験をとおして、町に伝わるしめ縄づくりの技術と伝統を後世に伝えています。


大しめなわ創作館


琴引フォレストパーク



色が変化する温泉！
頓原ラムネ銀泉

天然の炭酸ガスを多く含む全国でも珍しい温泉です。透明の源泉が空気に触れることで緑、黄、オレンジへと変化していくため「今日は何色かな？」と楽しめます。1881（明治14）年のドイツ万博では「世界希有の銀泉なり」と褒賞を受賞しました。

赤名湿地性植物群落

県下最大のハンノキ林と、そのもとに珍しい湿性の植物たちがたくさん集まる場所です。氷河期に多く生息していたという「ミツガシワ」の群生や、体長15㎜の小さな幻のとんぼ「ハッチョウトンボ」など、貴重な動植物に出会えます。



しまね19ものがたり 琴引神話

駆け落ちからの、国づくり



駆け落ちした、オオクニヌシとスセリ姫。二人は、スセリ姫の父親であるスサノオから与えられる、様々な試練を乗り越えます。そして、試練の地から脱出した後、ある山に登りました。山からは、出雲平野を見渡すことができ、そこで琴を奏でながら、新しい国づくりに考えを巡らせました。出雲の国づくりの原点となった、この山を琴引山と呼びます。


赤来高原りんご

飯南町のスローガン

小さな田舎からの「生命地域」宣言
笑顔あふれるまち 飯南町

人　口：4,516人
面　積：242.8㎢
町の花：ぼたん
町の木：ブナ



特産品

和牛肉、りんご、メロン、トマト、パプリカ、舞茸、そば、農産物加工品、米、サツマイモ、ヤマトイモ、日本酒

まちのスポット

東三瓶フラワーバレー、赤名観光ぼたん園、赤名湿地性植物群落、琴引フォレストパーク、琴引山、赤来高原観光りんご園、志都の里クラインガルテン／やまめの渓、森林セラピー、大しめなわ創作館

お祭・イベント

ぼたん祭、ポピー祭、半夏まつり赤来、やまなみ街道クライムライド、銀山街道ウォーキング、コスモス祭

出雲と石見と隠岐
どんな違いがあるのかな？



神楽

島根は日本有数の神楽が盛んな土地。
独自の発展を遂げ、他の地域の神楽にも大きな影響を与えてきました。



【出雲神楽】

出雲神話にちなむ神話劇が多く、荘厳な六調子で舞われます。「国譲り」神話の演目では、国譲りが成功した喜びの舞の後に餅まきをするので、このタイミングで舞台の前に子ども達が集まります。出雲神楽の基本となった佐太神社の「佐陀神能」はユネスコの無形文化遺産に登録されています。



【石見神楽】

国内外から公演に呼ばれるほど人気の石見神楽。アップテンポな八調子や、豪華な衣装と面、進化を続ける演目と演出など時代に合わせて変化してきました。石見では小さな頃から神楽が身近にあり、高校にも石見神楽部があります。伝統芸能でありながら変化を恐れない石見神楽は、石見の中でも昔の形を残すもの、たくさんのオロチが火を吹く大胆なものなど様々です。



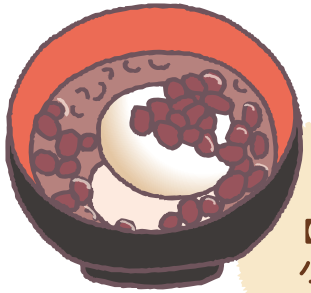
【隠岐神楽】

大漁や雨乞い、疫病退散などを祈って舞われる、離島らしい独特さを持つ神楽です。シンプルで古風な地域に根付いた神楽で、巫女舞が多いのも特徴です。神様に捧げることを主としているため、他の神楽と違ってしばしば観客に背を向けることもあります。



お雑煮

東西に長く、離島もある島根県には、
地域ごとに様々な雑煮が伝わっています。
すまし仕立てのだしに、ゆでた丸もちを
入れるのが県内でよくみられる雑煮です。



【出雲地方】小豆雑煮

甘く煮た小豆にもちを入れた小豆雑煮は、
一見ぜんざいのようでも、汁がさらりとしているのが
特徴的。もともとは、塩味の小豆汁だったといわれます。



【出雲地方・隠岐】岩のり雑煮

具は岩のりだけのシンプルさ。
なかでも、きめが細かく香りの上品な
最高級品「十六島のり」は古くから
出雲を代表する特産品として
知られています。



【石見地方】黒豆雑煮

お節料理の一品・黒豆をのせた素朴な雑煮。豆の数は
2粒と決まっている所もあれば数粒とする所も。
島根の方言で「元気」を「まめ」といい、黒豆雑煮には、
いつまでも元気で、という願いが込められています。



【石見地方】鮎雑煮

一級河川・高津川と江の川の流域には、
川を遡上するアユでだしをとる
鮎雑煮が伝わっています。内臓を取った
鮎を数日あぶり、乾燥させた干し鮎から
取れるだしは、上品な香りとすっきりと
した味わいです。



【大田市】五色雑煮

世界遺産・石見銀山のある大田に伝わるのは、錦糸卵、
す巻きかまぼこの細切り、青菜、かつお節、のりを盛り
つけた五色雑煮。シンプルな雑煮の多い県内において、
ひときわ色鮮やかで具だくさんの雑煮です。

島根PR情報誌「シマネスク」110号より

しまね19ものがたり

琴姫伝説

もう、琴の音色にしか、聞こえない。

ある春、琴を抱いたお姫様が馬路の浜へ流れ着きました。村人たちは、弱っているお姫様を手厚く看病し、お姫様はそのお礼にと、毎日琴を奏でました。それから、お姫様がいなくなった後も、浜を歩くと、琴の音色が浜から響いてきます。村人たちは、この音色をお姫様が村人たちのために残した琴のしらべだと言い伝え、今ではこの浜を「琴ヶ浜」と呼びます。



大田市のスローガン

子どもたちの笑顔があふれ、みんなが夢を抱けるまち“おおだ”

人　口：32,369 人
面　積：435.3㎢
市の花：れんげつつじ
市の木：うめ
市の魚：ひらめ



特産品　ブルーベリー

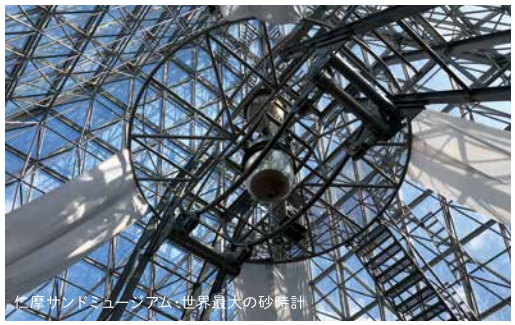
三瓶そば、ブルーベリー、メロン、西条柿、温泉津焼(焼物)、石州瓦、水産加工品、日本酒、ワイン、大あなご

まちのスポット

石見銀山、国立公園三瓶山、温泉津温泉、やきものの里、仁摩サンドミュージアム、琴ヶ浜、日本遺産「石見の火山が伝える悠久の歴史」・「神々や鬼たちが躍動する神話の世界」

お祭・イベント

大田市彼岸市、やきもの祭、温泉津温泉夏祭り、ぐるっと三瓶くにびきウォーク、さんべ志学の雪あかり



仁摩サンドミュージアム・世界最大の砂時計



三瓶山

島根県のほぼ真ん中にある大山隠岐国立公園の三瓶山。「出雲国風土記」の国引き神話にも登場し、標高1,126mの男三瓶を主峰に、女三瓶、子三瓶、孫三瓶など6つの峰が連なる活火山です。

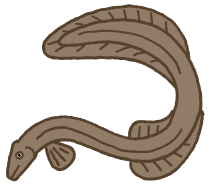
三瓶温泉

約1300年前の巨大地震の影響で湧き出した温泉。中国地方最多級の湯量で、鉄分を多く含む茶褐色の濁り湯が特徴です。江戸時代には湯治場として栄え、明治時代には、今の温泉街の原形が作られました。



大あなご

令和元年から島根県のアナゴ類漁獲量は3年連続で日本一。県内漁獲量の半分近くが大田市で水揚げされており、50㎝を超える天然の大あなごがたくさん獲れます。





大森の街並み



大田市
Ohda

石見エリア

しまねのね

山そびえる、世界遺産のまち

縄文の森と銀の山をつくった、火山の歴史を発見！

大田にある世界遺産「石見銀山」は、世界の人々が未来に残していきたいと願う特別な場所です。石見銀山の銀は世界的に有名で、一時は世界に流通する銀の10分の1以上を占めたほど。かつて世界の交易やその後の歴史にも大きな影響を与える存在でした。

今でも、銀山の開発の様子が分かる歴史的な形跡が多く残されていることや銀山が自然と共存しながら営まれていたことなどが高く評価されています。

また、県内唯一の活火山で、奈良時代につくられた「出雲国風土記」にも登場する「三瓶山」も、大田の誇る信仰の山です。

ここには、約4000年前の様子を伺い知ることができる、世界的にみても珍しい縄文時代の巨木の森「三瓶小豆原埋没林」があります。



石見銀山・龍源寺間歩

世界遺産・石見銀山

戦国から江戸時代中期にかけて日本を代表する銀山です。銀の積み出し港とそれらをつなぐ街道などが2007年、ユネスコ※により「石見銀山遺跡とその文化的景観」として世界の文化遺産に登録されました。

※ユネスコって？
国連教育科学文化機関：教育、科学、文化の発展と推進を目的とした専門機関



御取納丁銀







やきものの里

美郷町 Misato

石見エリア


江ノ川（カヌー）

しまねのね

日本中の農村が学びに来る先進地域

田畑を荒らすイノシシを地域資源にした驚きの手腕を持つまち

かつて石見銀山の銀は、美郷を通り、広島、大阪、そして世界へと流通していきました。銀山から広島までの道は「銀山街道」と呼ばれ、特に美郷を通る「やなしお道」は、今でもほとんど当時のままの姿を残し、歴史を伝える貴重な道として認められています。また、美郷が日本中から注目されている特産品「山くじら」（イノシシ肉）も美郷の魅力です。

今、イノシシに田畑を荒らされて困っている農村が日本中にたくさんありますが、美郷ではこのイノシシを捕獲して、地域の資源として活用しようと、まちが一体となって「おおち山くじら」というブランドを作り上げました。

田畑を守り、イノシシと共生する先進的な取り組みを学ぶために、美郷には、日本中からたくさんの人が勉強に訪れています。



おおち山くじら

田畑に被害を与えるイノシシをまちの人が協力して生きたまま捕獲することで、新鮮でおいしい肉として売り出しています。約4000人のまちに、イノシシを捕獲できる仲間がなんと約100人もいるんです！








酒谷もみじ街道ライトアップ


妙用寺の桜

沢谷三里桜街道

甘露山妙用寺の境内にあるミョウヨウジザクラは、樹齢約500年といわれる大樹です。ここから「ふるさとおおち伝承館」までの道には多くの桜があり、沢谷三里桜街道として親しまれています。

齋藤茂吉鴨山記念館

万葉歌人・柿本人麻呂の終焉の地は美郷町の「鴨山」であると断言した、歌人で精神学博士でもあった齋藤茂吉の研究成果を展示した記念館。「鴨山」への探求に半生をかけた齋藤茂吉のその経緯や足跡が詳しく展示されています。



田之原展望台

標高500ｍにある展望台からは、江の川の流れと川に沿って広がる美郷の町並みが望めます。秋から春にかけて、条件が揃えば雲海の絶景を見渡すことができます。




田之原展望台からの雲海

しまね19ものがたり 光石伝説

今ではライトアップで明るいです

村には、明るく光る大きな石がありました。夜にも灯りがいらないほどです。ところが、ある村人が石を分けてもらおうと、少しだけ割ってみたところ、たちまち光は失われてしまいました。今でも酒谷にあるその不思議な石は、もう光ることはありません。



美郷町のスローガン

水と緑　いきいき輝く夢あふれる協働のまち

人　口：4,229人
面　積：282.9㎢
町の花：しゃくなげ
町の木：梅


山くじら製品

特産品

おおち山くじら製品、はちみつ、どぶろく、鮎、薬草製品各種、杵つき餅、柚子ようかん、利久まんじゅう、鴨山だんご、ポポージェラート、マタタビドリンク、まほろば味噌

まちのスポット

ゴールデンユートピアおおち、カヌーの里おおち、湯抱温泉、千原温泉、齋藤茂吉鴨山記念館、浜原ダム、野間観光栗園、ふるさと伝承館、蟠龍峡、銀山街道、潮温泉施設

お祭・イベント

鴨山カルタ大会、美郷夏祭り、江の川つり大会、美郷ふるさと祭り・鴨山駕籠かき大会、銀山街道ウォーク、神楽共演大会


断魚渓



おおなん 邑南町 Ohnan

エリア 石見

しまねのね

素材をいかす天才！グルメのまち

土地の強みをいかした、田舎の最先端を走るまち

「日本一の子育て村」、食と農を切り口とした「A級グルメ」を通じたまちづくりなど、邑南の取り組みは田舎の最先端として全国から注目を集めてきました。

山からは水が湧き出し、中国地方最大の川「江の川」が流れる邑南は水に恵まれたまちです。きれいな水には、国の特別天然記念物「オオサンショウウオ」も棲んでいて、まちのイメージキャラクターとしても愛されています。

また、高原地帯にあるため、日中の寒暖差や季節の変化も大きく、その厳しさに耐える農作物はとてもおいしく育ちます。

かつて中国山地で盛んだった「たたら製鉄」にゆかりのあるブランド牛「石見和牛」も有名で、邑南ではそうした素晴らしい食材と、それを生産・調理する人材を育てることで、他にはないまちづくりを実現しています。



ハンザケ

国の特別天然記念物になっているオオサンショウウオは「生きた化石」と言われる珍しい生物です。邑南では、「ハンザケ」の名で親しまれており、町のマスコットキャラクター「オオナン・ショウ」もハンザケです。「瑞穂ハンザケ自然館」では、普段あまり目にすることが出来ないオオサンショウウオの生態を知ることができます。

日本一の子育て村

過疎化対策としてスタートした政策「日本一の子育て村構想」。医療体制の整備や子どもの医療費無料化、新規就農支援など、子育て世代の住みやすい町づくりを行っています。

年間200頭のみ生産する希少な和牛

石見和牛

牛の繁殖地、育成地として名高い邑南町。数が少なく上質な石見和牛は、「A級グルメのまち」を代表するブランド牛として全国に知れ渡っています。








INAKAイルミ（三江線鉄道公園）


香木の森公園

鉄道遺産・三江線鉄道公園

2018（平成30）年に廃止となったJR三江線。邑南では、かつて高さ日本一の「天空の駅」と呼ばれた旧宇都井駅とレトロな駅舎が特徴の旧口羽駅を「三江線鉄道公園」として開園しています。

久喜・大林銀山跡

邑南町出羽の岩屋から久喜・大林にかけて所在する銀山遺跡。戦国時代、毛利元就の命令で採掘が始まったと考えられ、江戸時代には天領として繁栄しました。明治時代にも津和野の堀家が再開発し、現在も採掘から製錬までの技術を伝える跡が多く残されています。


無形文化財
鹿子原の虫送り踊り

しまね19ものがたり

山姥のお手伝い

ちょっと手伝ってみたかったの



早乙女たちが集まって田植えをしています。遠目で人数を数えてみると、一人多い。そこで、近寄って一人一人確認すると、正しい人数です。でも、離れて見るとやっぱり一人多い。どうやらこれは、ヤマンバが早乙女に化けて、田植えを手伝っているようなのです。心優しいヤマンバは、田植えを終えると、原山の洞窟に帰っていきました。

邑南町のスローガン

心かよわせ ともに創る 邑南の郷

人　口：10,016人
面　積：419.2㎢
町の花：桜
町の木：赤松



特産品

石見和牛肉、石見ポーク、鮎、キャビア、ハーブ米、高原野菜、みそ、醤油、日本酒、自然放牧牛乳、さくらんぼ、ピオーネ、ブルーベリー

まちのスポット

香木の森公園、いわみ温泉、断魚渓、千丈渓、久喜・大林銀山、志都の岩屋、瑞穂ハンザケ自然館、深篠川、キャンプ場、青少年旅行村、はすみ交流センター、道の駅瑞穂

お祭・イベント

花桃まつり、次の日祭、ほたるまつり、鹿子原の虫送り踊り、みずほ夏祭り、やまんば祭、陰陽神楽競演大会、はすみリゾートまつり、INAKAイルミ

漠頭の玉枕

「バク」の枕で安眠まちがいなし

戦国時代の武将、小笠原長隆は、戦の褒美にと将軍足利義稙から、なんとも珍しい宝物をいただきました。それは、夢を食べるという動物、「バク」の頭の形をした枕です。枕の中にはバクの骨が納められています。この枕で眠ると、バクが悪い夢を食べてくれるので、良い夢だけを見ることができるのです。長隆のお墓がある長江寺では、今もバクの枕を大切に守っています。



獏頭の玉枕

川本町のスローガン

緑にこだます音楽の里

人　口：3,194 人
面　積：106.4㎢
町の花：さつき
町の木：もみじ



えごまの葉

特産品

西条柿、花卉、えごま、原木乾椎茸、ひまわりせんべい、鮎、つがに、あんぽ柿、スイートコーン

まちのスポット

ふれあい公園「笹遊里」、道の駅インフォメーションセンターかわもと、湯谷温泉「弥山荘」、かわもと音戯館、イズモコバイモ群生地、宝重山長江寺、悠邑ふるさと館

お祭・イベント

ええなあまつりかわもと、春夏秋冬を楽しむウォーキング、産業祭、川本町一周駅伝競走大会、川本町音楽芸能祭、かわもと春の音楽祭



長江寺



小笠原近重流田植えばやし

田植えばやし

三原地域に伝わる伝統行事「小笠原近重流田植えばやし」は、早乙女の田植え歌に合わせ、太鼓と舞で五穀豊穣を願います。今から約430 年前、丸山城を治めていた小笠原氏の時代に創られたと言われ、現代に受け継がれています。

川本町とエゴマ栽培

エゴマは、脳梗塞などの血管障害を予防する健康食品として注目されています。2002(平成14) 年から栽培が始まり、今では町の特産品として全国的に知られるようになりました。

江川太鼓

1972(昭和47) 年、豪雨による大洪水により川本は壊滅的な被害を受けました。そんな中、地元の青年たちが太鼓の勇壮な響きに復興の思いを託し作ったのが「江川太鼓」です。
今では、地元での公演や子どもたちへの指導をするほか、海外公演も行うなど地域を代表する郷土芸能となっています。





三原地区の田園風景



かわもとまち

川本町

Kawamoto

石見エリア

しまねのね

春の妖精が微笑む、真ん中のまち

緑の山々を美しい川が貫く、邑智郡の中心地として栄えたまち

島根の地図を見てみたとき、ほぼ真ん中にあるのが川本です。
その川本の真ん中には、中国山地を越えて日本海へと注ぐ大きな川「江の川」が流れています。
江の川は人や物を運ぶのに大変便利だったこともあり、
川本は古くは石見銀山の銀を運び出す玄関口として栄え、
多くの人が行き交う宿場町に発展しました。
川本といえば、絶滅危惧種に指定されている珍しい植物「イズモコバイモ」の、
日本一の群生地として有名です。
まちの人は、雪解けの頃に花開くイズモコバイモを「春の妖精」と呼んで
保護活動を行い、みんなで大切に守っています。
ちなみに、川本町は中国地方にある町の中で唯一、「町」を「まち」と読むんですよ。







イズモコバイモ

島根県だけに自生するユリ科の花で、絶滅危惧種に指定されている希少植物です。
3月中旬頃、春の訪れを知らせるように花開きます。



イズモコバイモ



江津市
Gotsu

エリア 石見


石州瓦の町並み（江津市黒松町）

しまねのね
美しい赤瓦の景色が広がるまち

日本中で愛される、美しく丈夫な焼き物を生み出してきたまち

中国地方最大の川「江の川」とともに開けたまち江津は、江の川河口の港として発展しました。

江津には、赤い瓦屋根が広がる美しい景色がたくさんあります。この景色を彩る瓦が、江津を中心とした石見地方で作られる石州瓦です。

石州瓦の美しい赤は、都野津などでとれる良質な土と松江特産の来待石からとられる釉薬が出会って、他の瓦に比べてとびきり高い温度で焼かれることにより生まれます。

石州瓦と同じように江津の良質な土で作られた陶器「石見焼」は、古くから大切な生活用品として日本中で愛用されています。



石見神楽の原型
大元神楽

古くから島根県の西部に広くあった大元信仰に由来し、石見神楽の原型とされています。1976（昭和51）年に国の重要無形民俗文化財に指定されました。6年に一度だけ舞われる貴重な神楽です。



石見焼

江津市を中心とした石見地方で焼かれている陶器の総称で、1994（平成6）年に国の伝統的工芸品に指定されています。特に大型の水がめ（はんど）は、江戸時代に北前船によって全国へ出荷され多くの人に親しまれました。






山辺神社祇園祭


有福温泉の街並み



カッパの伝説

桜江町には、江の川でイタズラをしたエンコウ（カッパ）にまつわる伝説があります。これにちなみ、毎年5月5日に水難からの安全を祈願する水神祭「猿猴祭」が行われ、500年近く続いています。

サッカー日本代表の必勝祈願も行われる
八咫烏を招く多鳩神社

日本サッカー協会のシンボルマークにもなっている、三本足のカラス八咫烏にゆかりがある神社。八咫烏は「導く力」という霊力をもった鳥と言われています。本殿の軒下には八咫烏を招くためといわれるブランコのような神饌台があります。


多鳩神社

しまね19ものがたり
甘南備寺の鹿

鹿になって、食べられた。

里に大雪が降ったとき、沢山の小僧さんがいるお寺では、たちまち食べるものが無くなりました。困った和尚さんがお祈りすると、一頭の鹿が現れます。ヤリで一突きにし、鹿汁にして食べ、人々は飢えをしのぎました。すると、骨だけになった鹿が、菩薩に姿を変えて、空へ登っていったのです。それで、鹿になって人々を救った甘南備寺の虚空蔵菩薩像の胸には、ヤリで突かれた傷あとが残っています。



江津市のスローガン

小さくともキラリと光るまち　ごうつ

人　口：22,531 人
面　積：268.2㎢
市の花：つつじ
市の木：黒松


石州瓦

特産品

石州瓦、石見焼、勝地半紙、神楽面、横笛、桑茶、ごぼう、あゆ、かまぼこ、あじ、まる姫ポーク

まちのスポット

波子・浅利・黒松各海水浴場、有福温泉、風の国、小川家雪舟庭園、江津本町甍街道、しまね海洋館アクアス、今井美術館、千丈渓

お祭・イベント

地場産業祭、ピクニックラン桜江、江の川祭、ごうつ秋まつり、桜江いきいき祭り、山辺神社祇園祭、川戸水神祭


北前船寄港地 外ノ浦

浜田市
Hamada

石見エリア

しまねのね

世界に開かれた港町

どんちっち、どんちっち、美味しい魚介もお祭りも浜田におまかせ！

日本海が目の前に広がる浜田は、昔から漁業がさかんな土地として栄えてきました。漁港文化は1700年以上とも言われるほど古く、江戸時代から明治時代にかけては、北の航路を通る貿易船（北前船）の重要な寄港地として多くの人で賑わいました。現在も、「浜田港」は外国の貿易船が行き交う島根県唯一の国際貿易港として日本の物流を支えています。

浜田では、市の魚になっている「ノドグロ」をはじめ、様々な種類のおいしい魚介が獲れます。また、海の恵みだけでなく、ユネスコ無形文化遺産「石州半紙」などの伝統工芸品もあるほか、室町時代から伝わる「石見神楽」は、子どもからお年寄りまで広く愛され、各地のお祭りでも欠かすことのできない郷土の伝統芸能として親しまれています。



北前船寄港地 外ノ浦

浜田には外ノ浦・瀬戸ヶ島・長浜の三つの港があり、中でも外ノ浦は北前船の西回り航路の風待ち港および瀬戸内方面への中継点として栄えた浜田藩最大の貿易港です。2018（平成30）年には街並みや関連文化財が日本遺産に認められました。



石見畳ヶ浦

1872（明治5）年の浜田地震によって海底が盛り上がることで現れた珍しい景勝地で、約5haの波食棚にはぽこぽこした無数の団塊や化石が見られます。

どんちっち三魚

「ノドグロ」「カレイ」「アジ」を独自の厳しい基準を設けてブランド化したもの。「どんちっち」とは、石見神楽の幼児言葉でお囃子の音が「どんちっち、どんちっち」と聞こえてくることに由来しています。


しまね海洋館アクアス



石見神楽

石見神楽では、日本神話を題材に、豪華絢爛な衣裳と面を身につけ笛や太鼓囃子に合わせて舞います。石見地方に古くから伝わる伝統芸能で、浜田市で速いテンポの八調子や、蛇胴、花火などのダイナミックな変革がなされ、唯一無二の神楽として地域に愛されています。



しまね19ものがたり

犬島と猫島

イヌとネコ争いがち。

石見国分寺が建てられたときの話です。畳ヶ浦の近くに作られた、国分寺の高い塔の影は、遠く離れた唐の国まで届くほど。唐では日が当たらなくなり、農作物ができなくなりました。これを知った唐のネコは、国分寺を焼き払おうとします。そして、ネコを止めようとする日本のイヌと争い、2匹は真冬の海に落ちてしまいました。2匹は寒さで固まり、そのまま「犬島」と「猫島」になったのです。



浜田市のスローガン

住みたい 住んでよかった
魅力いっぱい 元気な浜田
～豊かな自然、温かい人情、
人の絆を大切にするまち～

人　口：53,793人
面　積：690.7㎢
市の花：つつじ
市の木：さくら
市の魚：のどぐろ



特産品

一夜干し、長浜人形、神楽面、石州和紙、西条柿、梨、ピオーネ、日本酒、どぶろく、さば寿司、どんちっち三魚（ノドグロ、カレイ、アジ）

まちのスポット

県立石見海浜公園、石見畳ヶ浦、浜田城跡、しまね海洋館アクアス、三隅大平桜、石正美術館、美又温泉、旭温泉、世界こども美術館、かなぎウエスタンライディングパーク、はまだお魚市場

お祭・イベント

島根県雪合戦大会in旭、浜っ子春祭り、弥栄ふるさとまつり、さざんか祭り、日本石見神楽大会

お伊勢物語

高島のお伊勢の悲しい物語

高島という島に嫁いだお伊勢は、恋しい故郷に海を泳いで帰ろうと思いつきます。高島から故郷の海岸までの距離と、高島の周りを３周する距離は同じです。お伊勢は試しに、高島の周りを３周泳いでみたところ、泳ぎきることができました。そこで、そのまま海へと泳ぎ出すのですが、途中の小島で力尽きて、亡くなってしまいました。以来、この小島は「伊勢島」と呼ばれています。



益田市のスローガン

ひとが育ち 輝くまち 益田

人　口：44,438 人
面　積：733.2㎢
市の花：水仙
市の木：欅
市の魚：アユ



特産品

メロン、ブドウ、イチゴ、西条柿、トマト、アユ、ハマグリ、ゆず、わさび、木工品

まちのスポット

雪舟庭園（医光寺・萬福寺）、高津柿本神社、三里ヶ浜海岸、万葉公園、美都温泉湯元館、匹見峡、双川峡、ひだまりパークみと

お祭・イベント

益田まつり、益田水郷祭、柿本神社八朔祭流鏑馬神事、萩・石見空港マラソン全国大会、七尾まつり・益田天満宮祭、石見神楽共演大会



益田水郷祭



益田糸操り人形

日本で現在上演されている糸操り人形の中では、古い形態をとどめたまま上演される唯一無二のもの。1963（昭和38）年には県の無形民俗文化財に指定されました。



雪舟

室町時代の禅僧で画僧。益田にある現在の萬福寺と医光寺に山水庭を築き、「益田兼堯像図」「山水図」などの名作を描いています。晩年は再び益田を訪れ、画の制作に励みながらこの地で生涯を終えたと伝えられています。



唐音水仙公園

柿本人麻呂（人麿）

「万葉集」の代表的歌人。石見国府に赴任していたことから、石見地方を詠んだ歌が多く遺されています。益田には、人麻呂終焉の地の言い伝えと、高津柿本神社があります。



一級河川 高津川

益田市 Masuda

しまねのね

中世のとっておきが光る場所

あの時代、この場所だから生まれた特別な文化を持つまち

メロンにブドウ、イチゴ、それからユズ。

益田と聞くと、特産の美味しいフルーツがいくつも思い浮かびます。

日本一の清らかさを持つ高津川と、流れの澄んだ匹見川といった、美しい川では、アユやワサビが育まれ、山の栄養を運ぶ川の流れの先、日本海ではハマグリもとれます。

益田には、豊かな自然の力を借りた、いっぱいの「おいしい」がつまっています。

土地の魅力を引き出すのが上手な益田は、中世の頃、益田にしかない特別な文化を作り上げました。

もともと地域に根ざした文化と、中国や朝鮮半島などとの交易で取り入れられた文化が混じり合い、寺や神社、そこに作られる庭園や宝物、それに港、城、館など「中世の一級品」が益田の土地につめこまれたのです。

益田は、「おいしい」と「中世の一級品」がぎゅっとつまったまちです。



匹見ワサビ

「東の静岡・西の島根」とかつて称され日本二大名産地に数えられた匹見ワサビ。匹見川の主流、高津川は何度も水質日本一に選ばれた日本屈指の清流です。豊かな森と豊富な水に育まれた匹見ワサビは、ほのかな甘みと粘り　気が特徴です。







つわの 津和野町
Tsuwano

エリア 石見


JR山口線のSL

しまねのね

風情ある街並みが人を集める城下町

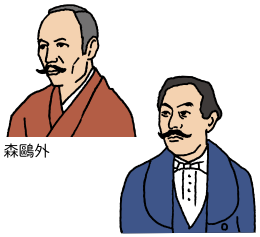
美しい景観を眺めながら、歩きたくなるまち

城下町として栄えた風情ある街並みから、「山陰の小京都」とも呼ばれる津和野。かつて津和野藩邸がおかれていた「殿町通り」には、日本伝統の壁塗り様式である「なまこ壁」や白い土塀など、江戸時代の武家屋敷の街並みが今でも残っています。

川から引き込んだ水が流れるお掘には、たくさんの錦鯉が泳ぎ、初夏には菖蒲の花が咲いて彩りを添えます。

また、五穀豊穣、商売繁盛の神様が祭られている「太鼓谷稲成神社」は、日本五大稲荷のひとつで、石段に約1000本の朱色の鳥居が並ぶ「千本鳥居」が壮観です。

津和野には、誰もが観光に出かけたくなるような、他の土地にはない津和野らしい風景がたくさんあるのです。


森鷗外

西周

森鷗外・西周と津和野

かつて津和野藩は小さくも教育熱心な藩で、明治の文豪・森鷗外や「哲学」「心理学」「感覚」などの言葉をつくったことでも知られる近代日本哲学の祖・西周など多くの偉人が生まれ育ちました。

津和野カトリック教会

1931(昭和6)年に建てられた教会で、礼拝堂の中は畳敷きになっているのが珍しいです。津和野には、明治のはじめにキリシタン殉教の歴史があります。




乙女峠マリア聖堂


太鼓谷稲成神社


街並み

日本三大芋煮の一つ

芋煮

津和野の郷土料理「芋煮」。昆布と炙った小鯛で出汁をとり、里芋と鯛のほぐし身を具にして柚子皮を添えるのが特徴です。毎年10月には「芋煮と地酒の会」が開催されています。



鷺舞

津和野に伝承されて400年の古典芸能神事。廃絶することなく奉納され続けている唯一の鷺舞であることから国の重要無形文化財として指定されています。






日原天文台

しまね19ものがたり もりちゃんのはなし



自由には、あらがう命の物語がある

国がキリスト教を禁止していた頃、長崎から津和野へたくさんの信者が送られてきました。そこで、信仰をやめるように迫ったのです。信者の一人に、5歳の女の子、もりちゃんがいました。飢えに苦しむもりちゃんに、役人はお菓子を見せながら言います。「これが食べたかったら、キリストは嫌いだと言いなさい」と。ところが、もりちゃんは「天国の味の方がもっといい」と答え、信仰を守って天国へと旅立ちました。

津和野町のスローガン

人と自然に育まれ、温もりのある交流のまちづくり

人口：6,775 人
面積：307.0㎢
町の花：つわぶき
町の木：樟
町の鳥：白鷺

特産品
鮎、わさび、日本酒、栗、榊、お茶、タラの芽、和菓子、ツガニ

まちのスポット
森鷗外記念館、殿町通り、西周旧居、津和野城跡、安野光雅美術館、桑原史成写真美術館、道の駅津和野温泉なごみの里、日原天文台、名勝旧堀氏庭園、津和野町日本遺産センター

お祭・イベント
やぶさめ神事、乙女峠祭、太鼓谷稲成神社例大祭、ほたるバス運行、鷺舞神事・子鷺踊り、つわの鯉・恋・来いまつり、鮎まつり花火大会、ゑびす講まつり、つわの芋煮と地酒の会、奴道中

吉賀町 Yoshika

エリア 石見


大井谷棚田の灯

しまねのね 清流高津川の、水源の郷

美しい棚田の風景が教えてくれる、古き良き農村を守ってきたまち

まちのほとんどが山林で、清流日本一に何度も輝いた高津川の水源があるなど、水と緑あふれる吉賀は、かつては参勤交代にも使われた街道の宿場町として栄えました。特産品には、お米や椎茸、ワサビ、ミニトマトなどがあり、吉賀が全国に先駆けて取り組んできた有機農業により安全でおいしく育てられています。日本棚田百選に認定されている「大井谷の棚田」は、室町時代から江戸時代にかけて築かれ、ここで作られたお米は津和野藩主への献上の品とされるほど、昔からおいしいことで有名です。600年もの間、積み直しや補修が重ねられてきた石積みの棚田風景には、吉賀の歴史と文化を感じることができます。

また、中国地方最大のコウヤマキ自生林があり、コウヤマキをイメージして東京スカイツリーを監修した彫刻家の澄川喜一や、世界的ファッションデザイナー森英恵の出身地でもあります。

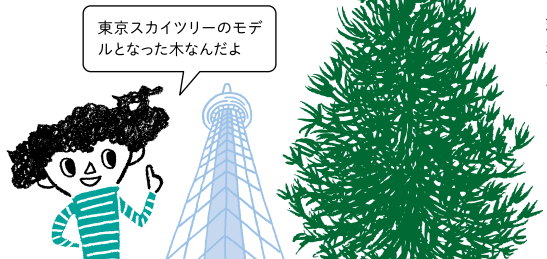


島根県唯一の間欠泉

木部谷温泉にある島根県唯一の間欠泉。地中の炭酸ガスにより、約25分に一度２mほどの高さまで温泉が吹き上がります。

コウヤマキ自生林

六日市には約48haに及ぶコウヤマキの自生林が広がっており、このうち25haは県の自然環境保全特別地区に指定されています。山陰唯一のコウヤマキ自生林や豊かな資源を観察し、保護・育成するための拠点「コウヤマキギャラリー」があります。



コウヤマキ





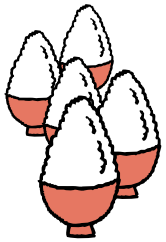

澄川喜一記念公園


水源祭り

雨乞い神事・水源祭り

いかなる旱魃にも水は枯れることがないという大蛇ヶ池の伝説にもとづいて行われる雨乞い神事。大蛇ヶ池にワラでつくった龍を飛び込ませ、池のほとりに立つ樹齢千年といわれる一本杉へ巻きつけると雨が降るという言い伝えがあります。

※水源とは、水が流れるおおもとの地



萬歳楽

高さおよそ18㎝の山盛りのごはんを食べきり五穀豊穣と地域の安泰を祈願する、室町時代から伝わる伝統行事です。１日目は「餅食い」行事、２日目は山盛りごはんのおかわりを巡りお椀を激しく奪い合う「わん隠し」が繰り広げられ、奇祭として知られています。



深谷大橋

巨石、怪石で名高い深谷渓谷にかかる赤いアーチ状の橋です。渓谷からの高さは約80m。思わず足がすくんでしまいそうな高さで、眼下に広がる渓谷美が楽しめます。

しまね19ものがたり 大蛇ヶ池

オロチの生き残りがいたとはね

スサノオに退治されたヤマタノオロチ。実はその頭の１つが生き残っていたのです。オロチは命からがら逃げてきて、小さな池に住み着きました。そして、様々な災厄を呼び込み、里の人々を苦しめます。その後、オロチは退治されましたが、今も池に立つ大きな杉の木に、その魂は住み着いているといいます。オロチの居着いたこの池が、高津川の水源、「大蛇ヶ池」です。

吉賀町のスローガン

自然の恵みに育まれ、人と共に生きる自立発展のまち

人口：5,920 人

面積：336.5㎢

町の花：ドウダンツツジ

町の木：コウヤマキ


ドウダンツツジ

特産品

わさび、しいたけ、栗、ミニトマト、米、有機野菜

まちのスポット

柿木温泉はとの湯荘、平栃の滝、大井谷棚田、大野原運動交流広場、水源公園・水源会館、六日市スポーツ公園、長瀬峡、カタクリの里、安蔵寺山、コウヤマキ自生林・コウヤマキギャラリー

お祭・イベント

カタクリ祭、よしか夢・花マラソン、しゃくなげ祭、水源祭、吉賀町ふるさと夏祭り、コウヤマキ自生林自然観察会、ひがん花祭り、紅そば花見会、きん祭みん祭農業文化祭、萬歳楽

温泉

歴史と美肌効果は
日本最高レベル



島根で温泉が湧き出ている場所は約60カ所。
1000年以上の歴史ある温泉が多いのが特徴です。



【玉造温泉】(松江)

「出雲国風土記」に、一度入るときれいになり、再び入れば病気が治ると書かれた「神の湯」。日本で最も古い温泉の一つといわれます。今では、美肌をテーマにした温泉まちづくりでも有名です。



【有福温泉】(江津市)

聖徳太子の時代に、天竺の法道仙人が見つけたと伝わります。
石畳の階段沿いに連なる赤瓦の建物が有福らしい温泉街の風景を作り上げています。





【温泉津温泉】(大田市)

1300年の歴史を誇る名湯。世界遺産「石見銀山」エリア内にあり、銀山を支える湯治場として栄えてきました。温泉街としては日本で唯一、国の町並み保存区域に指定されています。琥珀色の湯の花が疲れに効きそう！

しまね温泉ものがたり

この温泉で尾のない子牛を洗ったら、尾が生えたという伝説もあるよ。



隠岐と出雲の不思議な温泉伝説

ずっと昔からの言い伝えです。西ノ島町美田にある川の奥に温泉が湧いていました。ある日、この温泉で牛を洗ったところ、お湯が汚れて温泉は出なくなってしまいました。そしてそのお湯は、雲南市大東町に湧き出るようになったのです。これが今の名湯、海潮(牛尾)温泉です。

まだまだあるよ！

鷺の湯温泉(安来)
白鷺が傷を癒やした伝説がある

湯の川温泉(出雲)
女神の伝説が残る
「日本三大美人の湯」

出雲湯村温泉(雲南)
風土記に記された歴史ある湯

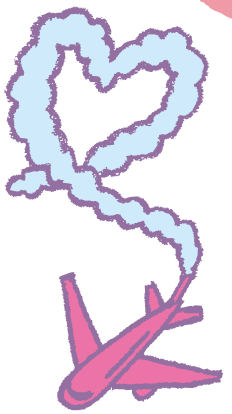
空港

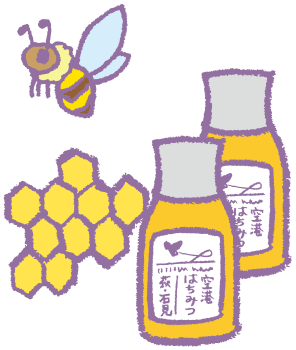
便は少ない！個性は強い！
島根の空の玄関



【出雲縁結び空港】(出雲)

縁結びの地、出雲をアピールする遊び心あふれる空港。
天井に、出雲大社の八雲の図をイメージした？雲のオブジェがあったり、ハートのスポットライトや床に埋め込まれたシルバーのハートがあったりと、探して楽しい仕掛けが施されています。
島根県観光PRキャラクターしまねっこのオブジェ前では、訪れた人が記念写真を撮っている姿がよく見られます。





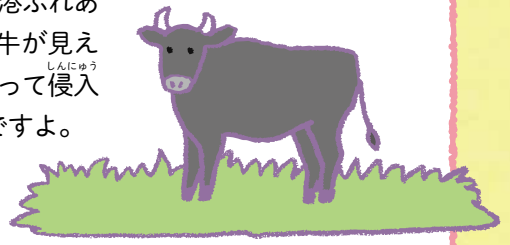
【萩・石見空港】(益田)

ヨーロッパで広まっている空港での養蜂を、アジアで初めて行いました。空港は周りに未利用の土地が多いため、蜂が農薬の影響を受けにくく、また近くに民家もないため迷惑をかけにくいことから、養蜂に適しています。
「空港はちみつ」として売り出し、地域の知名度向上や、仕事の創出などにも役立っています。ハチミツのコンテストでの受賞歴もあり、おいしさもお墨付きです。

【隠岐世界ジオパーク空港】(隠岐の島)

現在使っている滑走路のすぐ近くに平行して残る旧滑走路では、現在牛を放牧中。滑走路を望む空港ふれあい公園からは、滑走路と時々放牧されている牛が見えます。公園に隣接する放牧場から、牛が柵を破って侵入し、ちょっとした騒ぎになったこともあるんですよ。





お松のどっさり節

あの人、こんな感じの歌ってたな

島の漁師の娘、お松は、島に立ち寄った船乗りと恋に落ちました。船が島を出るとき、二人はまた会おうと約束します。お松は、船乗りがよく歌っていた越後の歌を口ずさみながら、再会の日を待ちました。越後の歌を知る人が、お松の歌は少し違うと言うと、お松は、「どっさりくっさり（どうにかこうにか）似ています」と寂しそうに笑います。船乗りが島に再び来ることはありませんでした。





春には野ダイコンの花が一面に咲くよ！ここで牛が歩く風景はのどかだね。

野大根の花（赤ハゲ山）



お松橋

島津島

お松橋を渡った先では、約600万年前の様子を伝える生き物の巣穴の化石が観察できます。温かい地域と寒い地域に生息する植物が混在する豊かな植生が特徴で、オキタンポポ、オキノアザミなど隠岐でしか見られない植物が見られます。



これまで一度も枯れたことがない

河井の湧き水

水が豊かな島として知られる知夫村を代表する湧き水です。「島根の名水百選」に選ばれており、飲料水・料理用として島民に親しまれています。かわいいタヌキの石像が目印。

後醍醐天皇

1332年に隠岐配流の身となった後醍醐天皇は、知夫の仁夫浜に上陸し赤ハゲ山にある仁夫里坊と古海坊（現在の松養寺）に宿泊されました。また天佐志比古奈命神社の境内には、後醍醐天皇が座って休んだとされる御腰掛の石が残されています。



知夫村のスローガン

活力ある住みよい島 知夫村

人　口：623人
面　積：13.7㎢

特産品

サザエ、アワビ、山海漬け（神葉）、岩ガキ、他ぬき焼酎、板ワカメ

まちのスポット

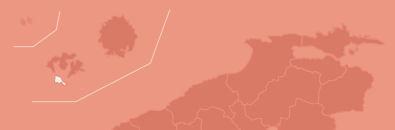
赤ハゲ山、赤壁、知夫村郷土資料館、渡津海水浴場

お祭・イベント

一宮神社大祭、サザエのつかみどり、花火大会、野大根祭り、お大師さん参り、皆一踊り、牛の海泳ぎ



赤ハゲ山展望台からの眺め



知夫村 Chibu

エリア 隠岐

しまねのね

世界でも珍しい大地の成り立ちが見える島

人間がちっぽけに見えるほど圧倒的な大地の力を感じられる村

知夫は、隠岐諸島の中で本土に最も近い島「知夫里島」にある、島根で唯一の村です。古くから隠岐の玄関口として多くの船が行き交い、北前船の風待港としても栄えました。地名の由来にもなった陸路海路の旅の安全を守る神様「道触神」が祭られている神社があり、古代から平安にかけては、日本を代表する海上航路の安全を祈る神社として知られていました。島の西側の海岸線には、高さ200mにも及ぶ絶壁「赤壁」が続きます。赤色の岩肌と黒白の鮮やかな色彩が壮大な景色は、自然の力強さと歴史を感じることができるとても珍しいものです。島の最高峰である「赤ハゲ山」からは、世界でも珍しいカルデラ湾に浮かぶ隠岐の島々が望めます。また、村には人口と同じくらいの数の牛がいて、至る所でのんびりとした姿を見ることができます。



赤ハゲ山

赤ハゲ山は、土壌が赤く木がないことからこう呼ばれています。知夫里島で一番高い標高325mの山で、山頂の展望台からは島前・島後4島を一望できます。



島の人より多い！

タヌキ

島には、現在約2000匹以上いるといわれ、農作物への被害など問題もありますが、特産品にタヌキのイラストを使用した観光PRを行うなど、共生できる策を模索しています。

赤壁

知夫里島の西海岸、およそ1㎞にわたって削りとられた断崖が続いています。赤色の岩肌は噴火した溶岩のしぶきが酸化してできたもので、玄武岩の黒や粗面岩脈の白など鮮やかな色彩が見られます。



赤壁

トビウオに似た石ってどんなの？

トビウオのことを「あご」といいます。あごに似た形の石「あご石」を24個、海岸で拾ってきます。元旦、あご石を神社に納めて、かわりに前の年に納めたものを取り出します。そして、その石を海に向かって、「大漁！」のかけ声とともに投げるのです。これが宇受賀命神社で続く「あご石」神事です。投げられた石は、あごとなって海に帰るといわれ、不思議と消えてなくなります。





海士町のスローガン

自立・挑戦・交流
×継承・団結

～心ひとつに！みんなでしゃばる島づくり～



人　口：2,295人
面　積：33.4㎢

特産品

さざえカレー

こじょうゆみそ、さざえカレー、岩がき、海士乃塩、隠岐牛、CAS製品、干しナマコ、福来茶、本氣米、崎みかん

まちのスポット

海中展望船あまんぼう、スキューバダイビング、後鳥羽上皇行在所跡（旧源福寺）、隠岐神社、明屋海岸、七尋女房岩、キンニャモンニャセンター、Entô（隠岐ユネスコ世界ジオパーク）

お祭・イベント

隠岐島綱引大会、キンニャモンニャ祭、食の感謝祭、産業文化祭、後鳥羽院遷幸八百年記念事業





岩ガキ

海士特産のブランド岩ガキ「春香」。大粒でミルキーな味わいが特徴です。新型冷凍施設「CAS凍結センター」により、鮮度を保ったまま全国に出荷しています。

「幻の黒毛和牛」
隠岐牛



隠岐島（海士町、西ノ島町、知夫村、隠岐の島町）で生まれ育った牛のうち、肉質の良い未出産の雌牛のみが隠岐牛となります。極めて出荷数が少ないため、市場では「幻の黒毛和牛」と呼ばれています。



三郎岩

菱浦港の北東部にある、大・中・小の３つの奇岩。まるで三兄弟のように仲良く並んでいることから、大きい方から「太郎・次郎・三郎」と呼ばれ地元の人たちに親しまれています。







海士町
Ama

隠岐エリア

しまねのね

挑戦する人が集まる賑わいの島

歴史と文化を大切にしながら、誰をも受け入れる懐の広いまち

海士のある中ノ島は、昭和の名水百選に選ばれた「天川の水」など豊富な湧き水があり、独自の美味しいお米も栽培されている、自給自足のできる半農半漁の島です。

承久の乱（1221年）に敗れて隠岐へ流された後鳥羽上皇が、生涯を終えた地としても有名で、上皇に縁の文化や伝承が今も大切に受け継がれています。

また、「ないものはない」…過剰なものはなくてよい、大事なものはすべてここにある、を合言葉に、過疎化の波を乗り越え、持続的な島の未来に向かって挑戦する取り組みは、日本中から視察者が訪れるほど注目されてきました。

島内外の人が集まって、しゃもじを手に踊り賑わう「キンニャモニャ祭」も、来る人を広く受け入れる海士らしさが表れた活気あふれるお祭りとして愛されています。

後鳥羽上皇を祭る隠岐神社



後鳥羽上皇

隠岐はかつて遠流の地でした。鎌倉時代には後鳥羽上皇が海士にご配流され、2021年には遷幸800年を迎えました。

上皇は、崩御されるまでの19年間を海士で過ごされ、島の人々からは親しみを込めて「ごとばんさん」と呼ばれています。

キンニャモニャ祭り

子どもから大人まで、両手にしゃもじを持って踊る海士最大のイベントです。






国賀海岸（摩天崖）



西ノ島町 Nishinoshima

エリア 隠岐

しまねのね

壮大な景観が広がる放牧の島

離島の良さを活かした畜産業と漁業が、観光業にも繋がっているまち

青い海を背景に、一面緑の草地でゆったり草を食む馬。いかにも西ノ島という風景です。

大山隠岐国立公園の国賀海岸には大絶壁「摩天崖」があり、自然が作り出した海面から257ｍにも及ぶ高さの崖は迫力満点。

一方、断崖の上にはおだやかな緑の地形が広がり、広大な牧野を利用した畜産が盛んです。島を歩いていると、あちらこちらで放牧されている牛や馬に出会うという、珍しい体験ができます。

西ノ島は歴史的にも古く、後醍醐天皇の行在所跡のある黒木御所や、海上交通安全の神様として信仰が厚い焼火神社など、多くの史跡が残されています。

西ノ島では、イカと女神の伝説が伝わる神社があるほど昔からたくさんのイカがとれ、また、岩ガキの養殖に日本で初めて成功するなど、漁業も盛んです。



精霊船

盆に迎えた先祖の霊を精霊船で海に向けて送る盆行事。集落毎に数多くの旗で飾られた大きな精霊船を作り、子どもたちが供物とともに乗り込んで盆唄とご詠歌の中、先祖の霊を送り出します。



観音岩



国賀海岸の奇岩の中でもひときわ細長くそびえ立つ観音岩。海抜約40ｍの高さがあり、日が沈む頃に火が灯ったろうそくに見えることから「ローソク岩」とも呼ばれています。


由良比女神社例大祭



焼火神社

標高451.7ｍの隠岐島前で最高峰の焼火山。その中腹にあり、島前3島の間を航行する船からよく見えることから、昔は境内で灯される明かりが灯台の役割を果たしていました。北前船の寄港が盛んだった江戸時代には航海安全の神様として広く知られていました。



黒木御所

隠岐へ配流された後醍醐天皇が、脱出までの1年余りを過ごされた行在所と伝えられています。別府港にのぞむ天皇山の山頂にあり、登り口にある資料館・碧風館では天皇に関する資料、黒木御所跡の伝承にまつわる文書、絵画などを展示しています。


後醍醐天皇


観音岩

しまね19ものがたり 由良比女神社とイカ寄せ浜

イカのお詫び

由良比女神社の神様が桶に乗って海を渡っていたときです。神様が海に手をつけていると、誰かに手を引っ張られました。イカがいたずらをしたのです。それから、神社の前にある浜には、毎年たくさんのイカが、いたずらのお詫びにやってくるようになりました。



西ノ島町のスローガン

国賀と運河のある町

人　口：2,747人
面　積：56.0㎢
町の花：椿
町の木：黒松



特産品

活イカ、岩ガキ、サザエ、イカ一夜干、アワビ、メザシ

まちのスポット

西ノ島ふるさと館、黒木御所碧風館、西ノ島総合公園、国賀海岸、国賀めぐり定期観光船、焼火神社、由良比女神社、B&G海洋センター、西ノ島町観光交流センター、メド岩、摩天崖

お祭・イベント

由良比女神社例大祭、美田八幡宮例大祭、日吉神社例大祭、帝まつり、産業文化祭、西ノ島ハーフマラソン

八百杉の伝説

杉、こんなに大きくなりました

人魚の肉を食べると、不老不死になると言い伝えられています。そうして不老不死となった尼さんが、玉若酢命神社を訪れました。尼さんは、境内に杉の木を植えて、「800年後、またここに来ます」と言い残し、去って行きました。その杉は八百杉と呼ばれ、800年以上経った今も、境内にそびえ立っています。



隠岐しゃくなげ



隠岐の島町のスローガン

つながらぁや つながぁや 一万年の隠岐の島

人　口：13,295人
面　積：242.8㎢
町の花：隠岐しゃくなげ
町の木：杉



ヒオウギ貝

特産品

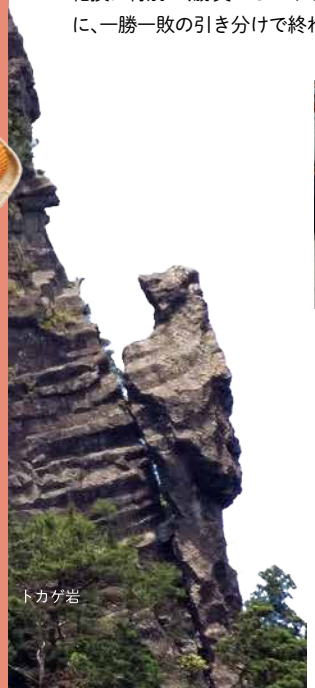
白イカ、白バイ、松葉ガニ、黒曜石、岩がき、ヒオウギ貝、隠岐そば、あごだし

まちのスポット

隠岐自然館、隠岐モーモードーム、隠岐郷土館、隠岐温泉GOKA、五箇創生館、あいらんどパーク、蓮華会舞演舞場、黒島、岩倉の乳房杉、かぶら杉、白島海岸、ローソク島

お祭・イベント

蓮華会舞、しげさパレード、しゃくなげ祭、隠岐の島ウルトラマラソン、玉若酢命神社御霊会風流、牛突き



トカゲ岩



壇鏡の滝



隠岐の島町役場

その起源は約1200年前！相撲の原点とも言われているよ。



隠岐古典相撲

神社の屋根の葺き替えや町の記念事業などを記念して、「古典相撲」と呼ばれる夜を徹しての相撲大会が行われます。隠岐国一宮である水若酢神社で20年に一度行われる遷宮相撲は特別で、勝負のしこりを残さないように、一勝一敗の引き分けで終わります。



馬入れ神事

馬入れ神事

島後の三大祭りの一つ、玉若酢命神社の御霊会風流で行われる馬入れ神事。それぞれの地区の氏神を乗せた8頭の神馬が、馬付きの若者と共に狭い参道を駆け上がり、神社へと参じます。



ローソク島

隠岐の島町

Okinoshima



エリア 隠岐

しまねのね

絵になる！日本海の秘境

離島ならではの歴史や文化がずっと大切に守られているまち

「隠岐は絵の島　花の島～♪」と隠岐民謡「しげさ節」に歌われるように、隠岐の島には雄大な海岸風景や緑豊かな自然がたくさんあります。白色の岩肌が美しい白島海岸や、夕日が灯るローソク島、存在感のある不思議な形の杉など思わず写真に撮りたくなるような場所ばかり。

離島ならではの独特の文化も今に受け継がれていて、日本の国技である相撲の原点とも言われる「隠岐古典相撲」や「隠岐国分寺蓮華会舞」は1200年もの歴史があるといわれます。島の珍しい地形やそこにある生態系、そして人の営みが織りなす景観は、「隠岐ユネスコ世界ジオパーク」の一部として世界からも認められている、未来の人々に残していきたい宝物です。





蓮華会舞

隠岐自然館



隠岐ユネスコ世界ジオパーク

隠岐諸島とそれを取り巻く環境そのものがジオパークのエリアです。独特の地質、地形と、離島ならではの自然と文化が、地球について学び、未来に残すという目的をもったユネスコ世界ジオパークに認められています。

約800年の歴史を持つ
日本最古の闘牛

隠岐牛突き



隠岐へご配流となった後鳥羽上皇をお慰めするために島の人々が始めたのが起源とされます。巨体の雄牛同士がぶつかり合う様は大迫力です。

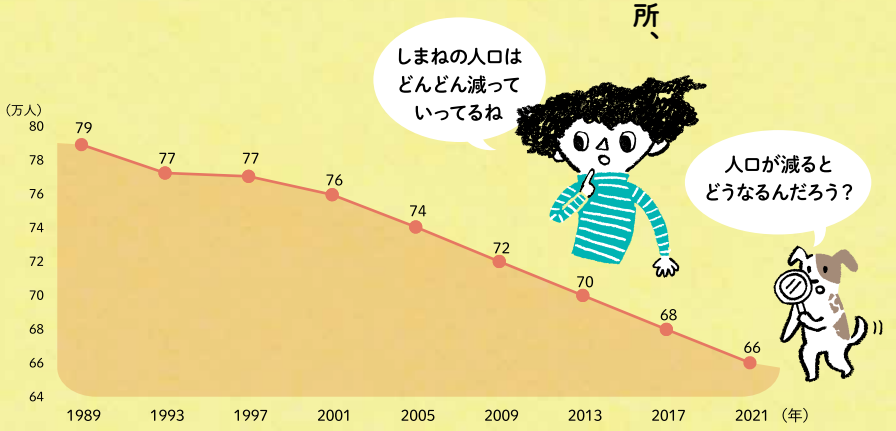
隠岐国分寺　蓮華会舞

平安時代から伝承される貴重な芸能で、独特の舞楽と仮面が有名な国の重要無形民俗文化財です。毎年弘法大師の命日である4月21日に国分寺本堂前の特設舞台で舞われます。

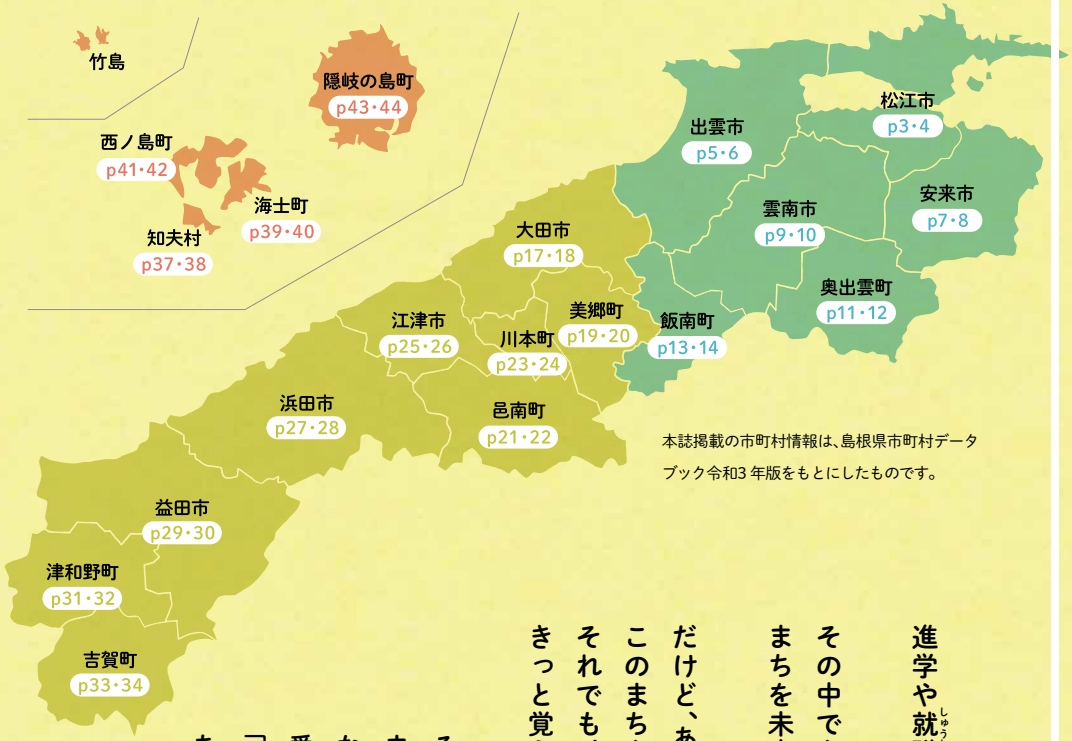


島根は、なにもないまち？

いいえ、島根に「なにもない」まちは、ありません。
19のまちに、そのまちらしい素敵な魅力があります。
世界から注目されていること、日本中から人が集まる場所、
他にはない珍しいもの。
すごい肩書きはなくても、まちで愛されている、
そのまちらしさも素晴らしい魅力です。
そしてその多くは、誰かによって守られ
受け継がれてきたものです。
里山を守る人、伝統を受け継ぐ人、物語を語る人。
まちに新しい個性を生み出す人。
住む人、知る人がいなくなったまちは、
「なにもない」まちになってしまいます。
島根では人が減り続けています。



島根県人口推移（総数）



本誌掲載の市町村情報は、島根県市町村データブック令和3年版をもとにしたものです。

進学や就職、結婚など人生の節目で多くの人が移動します。
その中でもずっと生まれ育ったまちで暮らし、
まちを未来に繋ぐ人になることは、偉大なことです。
だけど、あなたにも、
このまちを離れるときが来るかもしれません。
それでも、他のどことも違うこのまちを
きっと覚えていてください。
そして、いつか。
まちに戻ってきたいと思ってもらえたら、
なんて嬉しいことでしょう。
愛され続けるふるさとに、
「なにもない」まちは
ありません。





しまねまちなび
SHIMANE MACHI NAVI

島根県市町村総合事務組合（しまねまちなび）
〒690-0887 島根県松江市殿町8番地3 島根県市町村振興センター